

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	みずほひじり保育園
活動日時	令和7年11月13日(木)
クラス名(年齢)	うさぎ組(2歳児)

1、活動テーマ

<テーマ>

どんぐりで遊ぼう！

<テーマの設定理由>

子どもたちが拾ってきたどんぐりを使って、遊ぶ。遊びの中で感じる、どんぐりの大きさや色、形あるいは感触など、子どもの気づきを受け止めていく。

2、活動スケジュール

(室内で)各テーブルごとに複数のどんぐりを用意し、子どもたちが自由に見たり、触ったりする。
(戸外で)転がす、揺する、落とすなど、どんぐりを使って聞こえてくる“音”や感覚を楽しむ。

3、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

お菓子の箱(厚紙)、ブリキの缶、フライパン、陶器の皿、段ボール、水の入った水槽やバケツ、ペットボトル、ポリ袋、カメラ

4、探究活動の実践

<活動内容>

散歩で拾ってきたどんぐりを手に取り、触った時の感触や、近くで見ると色や形も様々なことを知る。保育士が机の上にどんぐりを立たせると、同じように立たせ、並べようとする子もいた。どんぐりに興味を感じられたところで、戸外でさらに楽しめるよう、場所を移動する。目の前にたくさんのどんぐりを広げる。身近な道具を使って、転がす、容器に入れて揺する、フライパンや陶器の皿の上に落とす、水の中に落とすなどして楽しむ。遊びを通して感じたことや、気づきを受け止めるとともに、その思いを保育士や友だちと共感し、さらに楽しもうとする意欲を引き出していく。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

① 目の前にどんぐりを用意すると身を乗り出して触ったり、好きなどんぐりを選んだりしていた。子どもの中には「きれい」「光っているよ」と、表面に艶があるどんぐりを見つけ、教えてくれた。



② 戸外では、それぞれ好きな道具を選び、容器の中にどんぐりを入れて振る。「大きな音する」「カラカラ〜って聞こえるよ」など、どんぐりの量で音の違いを感じていた。



③ 保育士がフライパンや陶器の皿を用意し、そこへどんぐりを落としたらどんな音がするか、探してみる。子どもたちは次々と落とし、素材によっても音が異なることを知った。



④ 段ボールをスロープにし、スロープの上から転どんぐりを転がして落とす。落ちた先で聞こえる音に耳をそばだてていた。水槽に水を入れ、そこへどんぐりを落とす。どんぐりの大きさによって音が違ったり、水に沈むどんぐりと浮くどんぐりがあることに気づいた。



5、振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

どんぐりに複数の種類があることが分かりやすいよう、あらかじめ保育士が別の場所で拾ってきたどんぐりでも楽しみ、一層の興味が感じられた。目で見ただけでは感じることの出来ない、どんぐりの大きさや量、転がる速さや落ちた時の“音”が聞こえる瞬間など、五感を存分に働かせ、じっくり取り組むことができた。

どんぐりの量も十分あったため、子どもたちが「足りない」と感じることはなかった。活動の最後には、子どもたちが一つ残らずどんぐりを拾い、片付けまでしっかり行うことができた。今回の活動を通して子どもたちなりの成長も感じる事ができた。